



来賓挨拶

ファイザー株式会社 代表取締役社長

梅田 一郎

ファイザーヘルスリサーチ振興財団の出捐企業であるファイザー株式会社を代表して、一言ご挨拶を申し上げます。

まず最初に、本年度の助成を受けられました41名の先生方、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。2年後の当フォーラムで本日受賞された先生方の研究のご発表をお聞きできることを、今から楽しみにしております。また、選考にあたりまして、大変ご多忙な中お時間を割いていただいた選考委員長の永井先生を始めとする選考委員の先生方に、心より感謝申し上げます。

島谷理事長からご報告がありました通り、ファイザーヘルスリサーチ振興財団は、この10月1日に公益財団法人に移行しました。財団自体は平成4年に設立されましたが、その当時は研究助成プログラムに応募される先生方の間でも“ヘルスリサーチ”自体がよく理解されていなくて、選考委員の先生方が選考に大変ご苦労されたということも聞いております。そういった意味からも、今回の公益認定は、そのような時代から今日に至るまで、財団がわが国のヘルスリサーチの振興に大きな役割を担ってきたことを評価されてのことであると考え、出捐企業としても大変名誉なことであると受け止めております。ファイザーヘルスリサーチ振興財団が公益財団法人として、今後もさらに公益性の高い事業活動を進めていくことを期待しております。

財団の事業の柱である研究助成活動の、発足当初からの累計金額あるいは件数等につきましては理事長よりご紹介のあった通りですが、本年度は応募数が237件と過去最高で、国際共同研究が5.6倍、国内共同研究の「年齢制限なし」の部で6.5倍、「39歳以下」の部で5.3倍という、非常に高い倍率の中から選ばれた研究であると聞いております。このように高い倍率の中から選ばれた研究ですので、その成果につきましても非常に高い期待が寄せられていることと思います。これからも益々ご精進いただき、立派な成果を上げていただくように期待しております。

選考のご苦労や詳細に関しましては、後ほど選考委員長の永井先生よりご紹介があると思っております。

開会のご挨拶の中で、岡部先生からファイザーの会社の状況についてご案内をいただきましたが、私の方からも少し補足をさせていただきます。

先頃発表されたファイザーの今年の第3四半期（7月～9月）の決算によりますと、ワイス社との合併効果により、グローバルの売上高はこの3ヶ月間で前年同期比39%増の161億ドル、日本円で約1兆5,000億円となりました。一方で、事業統合に関する費用もたい

へん嵩み、純利益は70%減の約700億円となっております。研究開発費の高騰等に伴って、こうした企業間の統合・再編は今後も避けて通れない道と受け止めております。

また一方、アメリカをみますと、ご存じの通り、中間選挙で民主党が歴史的な大敗をして、アメリカでも“ねじれ現象”が起こり、今後の先行き不透明感が一気に高まっております。そうした中、オバマ大統領の医療制度改革も今後どのような影響を受けていくのかということについて、私どもも大変関心をもって見ております。

一方、日本のファイザーは、今年日本法人レベルでもワイス社との統合が完了し、6月1日に新生ファイザーとしてのスタートを切りました。この統合の成果や社員の努力によって、弊社の売上規模も国内で1、2を争うところになりつつあります。また、これまで扱っていなかったワクチンの分野にも新たに進出できました。日本国内で果たすべき責任の大きさを一層感じているところです。

実は、そのような中で、つい先日の10月1日に日本でたばこ増税が行われ、この前後に禁煙を希望する患者様が医療機関に過去の数倍集まるということがありました。弊社も内服の禁煙補助薬を出しているのですが、全ての患者様のご希望に対応しきれない事態が発生してしまいました。現在増産に力を注いでいるところですが、関係する皆様方に大変ご迷惑をおかけしております。本日ご来席の先生方の中にも影響を受けた方がいらっしゃるのではないかと思います。大変申し訳ございませんでした。このようなことを今後引き起こさないよう、社員一同、一層努力をして参りたいと考えております。

ファイザー株式会社のビジョン（企業理念）として、「日本で最も信頼され最も価値あるヘルスケア企業になる」ということを掲げております。こうしたビジョン実現のために、私どもは生命関連企業に相応しい貢献として、ヘルスケア関連団体へのサポート、NPOへの助成プログラム、社員による社会貢献活動プログラム、あるいは疾患啓発活動など、様々な社会貢献活動を行っております。その中でも、最も歴史が長く、最も規模が大きいのが、この財団による研究助成プログラムです。今後とも出捐企業として、継続的な寄付を通じて財団事業活動の支援を行い、社会貢献の一翼を担っていきたくと考えております。

医薬品産業も、大型製品の相次ぐ特許切れ、あるいは開発コストの増大等、大変厳しい事業環境に直面しております。私どもファイザーも例外ではありません。しかし、全社一丸となってこの難しい局面を乗り越え、今後ともわが国のヘルスリサーチの発展のために寄与して参りたいと考えております。

終わりになりましたが、本日助成を受けられた先生方とフォーラムに参加いただいた先生方の、益々のご健勝とご発展を心よりお祈り申し上げて、私のご挨拶とさせていただきます。

受賞されました先生方、誠におめでとうございます。